

雨の中2000人の生徒が栄を「パデーモ」：18歳選挙権を祝し、給付型奨学金導入や学費問題を訴える



”パレードという名のデモ＝「パデーモ」という造語を合い言葉に降りしきる雨の中、白川公園と栄を2000人の生徒達が経済的理由で学びを阻害されている状況を打開するために「給付型奨学金導入」を中心に市民に訴えました。

パデーモに先立ち午前中に開かれた「学費・奨学金問題および18歳選挙権を考える集会」では大学の学費が高騰している中で大学生の2人に1人が奨学金を利用し、その返済に苦しむ現状や進学への不安が資料や体験をもとに報告されました。この集会やパデーモにはテレビ局や新聞社がほとんど取材をし、すでに各紙・各局で報道されています。今回の報道では単なる生徒の活動報道ではなく、私立・国公立大学学費がこの25年間で1.5倍になっているのに国民の世帯平均年収は大幅に低くなっている点や、非正規労働者の増大による収入の低下など背景まで解説し、奨学金の返済で苦しむ私学の教師に密着取材を行うなど丁寧な報道が目立ちます。18歳選挙権を「学ぶ権利」に結びつける高校生の訴えが社会を動かし始めていることを感じます。



会場の商工会議所ホールを埋めつくした生徒たち

4月に高校生フェスティバルが行った「1万人アンケート」のなかの「高校の学費負担」に関する自由記述欄に本校の生徒の書いた文を紹介します。

「私の家庭は母子家庭で、兄も中学から私立の学校へ通っているため、母が一生懸命一人で働いているので、母が心配です。自分の夢を諦めて、普通の公立高校へ行こうか迷いました。私は兄より頭がよくないので、今、私が私立に通っていることに少し罪悪感があります。」

(愛知黎明高校1年女子)

この自由記述欄では「ひとり親の家庭、兄弟がいる」「授業料の他にも部活にかかる費用、教科書代、制服代、修学旅行などの負担が大きい」「奨学金を借りても、社会に出てから返せるのか不安」などの回答が多かったとのことです。私が大学生の時、受講したい講義の教科書を買えず諦めたことがあります。私が大学で教科書を指定しなかった理由のひとつがこの体験です。

『21世紀型学び』創刊される

愛知私教連「21世紀型学び」推進委員会編集の同誌がいよいよ創刊されました。本校の杉浦裕司先生による「探究基礎」を通して学びを変える」「学校を変える」>も掲載されています。今月末から1年生のインターンシップが始まります。今年の1年生は取り組み方が良いと杉浦先生やアスクネットの方から聞いています。どんな物語が生まれるか楽しみです。

「アクティブラーニング」に関する論文もあるので、学内で学習会ができるとよいですね。英語教科懇の岡本洋美先生（東邦高校）は本校でもよく引用されるウィリアム・ウォードの言葉を冒頭にあげて英語教科懇の「学びたくなる瞬間」をつくる実践報告をしています。

「平凡な教師は言って聞かせる

よい教師は説明する

優秀な教師はやってみせる

しかし最高の教師は…

子どもの心に火をつける」

私は花井広幸先生（私教連書記次長）の＜JK8「10代が考える重大な10大政策」の取り組み＞を特に興味深く読みました。この夏（8月6、7日）三重大学を会場にして開催されるフレネ教育研究会全国集会にもJK8と花井先生が「私たちの学び」というゲスト報告をします。JK8の学習が深まる秘密を花井先生は以下のように指摘しています。

”ようするに、生徒の学びの深まりは「議論」で決まる。議論が「命」である、ということ。”

また、2月の授業改革フェスでJK8が開いた「祝18歳選挙権三大講座」の佐藤和花さん（東海学園2年）のまとめも素晴らしいですね。

”「誰が苦しんで、誰が救われる政策なのか」を見極め、自分で判断することが大事。”

”学ばなければ、本当に変えなければいけない現実をスルーしてしまう。”

”学ぶことさえままならない、まだ見ぬ仲間のために行動すること。それは、選挙、署名、パレード、群舞、募金。”

先週、私学奨学資金財団の理事会が開かれましたが、昨年度街頭で生徒達が集めた1億円募金が800万円を超えたことも報告されました。正月3ヶ日初詣の人たちに募金を訴える生徒達は高校生が行っている募金であることをアピールするためにコートを着用せず制服で訴えたそうです。募金をする人の中にはスーパーに戻ってマフラーを差し入れてくれる方もいたとのことです。「善意の連鎖」に心が温まる思いで聞いていました。

<新任研修を見学しました>

この4月から始まっている新任研修を見学しました。6月13日のテーマは「人はどのように学ぶのか」で、二人の先生から報告がされました。看護科のD先生は介護施設で「高齢者は食事に対して高い要求を持っていること」を感じるようになり、「嚥下」の研修会や学会に参加して知識や技術を身につけ職場でも広げていったそうです。施設の高齢者のために何とか工夫したいというD先生の現実的な動機が学びの要求を引き起こし、さらに学びで得た知識や技術を施設で日常化するために仲間と共有するというサイクルは「学びの哲学」に合致しています。では、そのような「ほんものの学習要求」を学校でどう実現するのか？ここが課題であるという意見も出されていました。サマセミの講座はおもしろいのには学校の授業はなぜおもしろくないのか？—この問いにある生徒がつぶやきました。「だって学校の授業は街とつながっていないもんな。」この「街」は「地域」であったり「本物」であったり…。

21世紀型学び

21st century learning — Educational revolution —
愛知私教連「21世紀型学び」推進委員会

特集「21世紀型学びをどうするめるか」

◎ナマで教員：民権改革フェス・シンポジウム
（高橋淳子・大岡謙次郎・市川道子・田中一光・
山崎万寿・相澤・藤村直樹）

Contents

「21世紀型学び」発刊にあたり（前巻）	P01
民権改革フェス・食糧シンポジウム	P01
「探究基礎」を通して「学びを変える」「学校を変える」（杉浦裕司）	P13
将来を担うための「探究基礎」の導入（山崎直樹）	P19
学校改革の鍵は「探究基礎」について（高橋淳子・相澤）	P27
授業改革フェスに関する生徒の意見（佐藤和花）	P30
「10代が考える重大な10大政策」の取り組み（花井広幸）	P33
「学びたくなる瞬間」をつくる（岡本洋美）	P38
学校改革フェスと探究基礎としてのアクティブ・ラーニング（山崎直樹）	P39
「21世紀型学び」の取り組み（山崎直樹）	P41
行動から学ぶ（佐藤和花）	P44
わが校で実践すること（山崎直樹）	P47
「学校・文化・環境」がもたらす変化（山崎直樹）	P50
編集後記	P52

